

## 豚の口蹄疫発生に備えた防疫対応の確立

### 姫路家畜保健衛生所

○寺谷知恵 正木達規 古根川陽子 小西貴宏 丸尾喜之  
田原和彦 小倉裕司 北垣貴央 永田圭司

管内は県内豚飼養戸数の約 50%、豚飼養頭数の約 68%を占め、県内唯一の 3,000 頭以上を飼養する大規模養豚農家も存在する。また豚での口蹄疫感染は周辺地域への感染拡大を助長することから、特に迅速な防疫対応が求められる。今回、豚の口蹄疫発生に備えた防疫対応の確立に向けた取り組みを実施したのでその概要を報告する。

#### 【取り組み】

##### 1 豚を用いた防疫訓練の開催

- (1) 防疫作業従事者訓練：家畜防疫員以外の国や県民局の防疫作業従事者を対象に、豚の保定、誘導訓練を実施した。
- (2) 病性鑑定訓練：家畜保健衛生所（家保）職員を対象に、県の口蹄疫防疫作業マニュアル（県マニュアル）に基づいた病性鑑定各段階の実地訓練を実施した。
- (3) 殺処分訓練：家保職員を対象に、農林水産省が作成した口蹄疫に関する作業マニュアルをもとに薬殺を想定した血管確保と電殺機による殺処分を実施した。

##### 2 農場別防疫作業計画の作成

防疫訓練から、円滑な防疫対応を実施するにあたり、発生時の農場情報の把握と殺処分に関しての事前検討の必要性を感じ、管内全 17 戸の豚飼養農場について農場別の防疫作業計画を作成した。

#### 【成果】

- 1 防疫作業従事者、家保職員ともに豚を用いた今回の防疫訓練は有意義であったという意見が多く、防疫作業内容への理解が深まり、技術の習得につながった。
- 2 豚での病性鑑定時の立入検査体制や、病性鑑定時及び殺処分時に使用する薬剤の特性に応じた作業方法の検討、電殺機を用いた殺処分方法の注意点など、県マニュアルの改訂すべき点を明確にできた。
- 3 農場別防疫作業計画の作成により、発生農場情報や口蹄疫発生時の制限区域内農家情報、経営形態や飼養規模に応じた殺処分方法、それに伴う必要人員数や必要資材など、発生時防疫対応に必要となる情報を予め備えることができた。

#### 【まとめ】

今回実施した豚を用いた防疫訓練から得られた知見をもとに、県マニュアルをより実効性のあるものへと改訂し、農場別防疫計画についても随時見直しを行う。また今後は豚舎内環境での実践的な防疫訓練を実施し、豚の口蹄疫発生に備えた防疫対応の確立に向けて取り組んでいきたい。